



光熱費及び暖房器具への支出



- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

今冬も政府から節電要請があり、皆さんの中には節電対策として暖房を控えている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、「大寒」を迎えるこの時期には暖房が欠かせません。今回は、家計調査の中から光熱費とストーブ・温風ヒーターについてみてみましょう。

50年前は、石炭・木炭などへの支出が全体の約3割

まず、年別の光熱費の内訳をみてみましょう。各年とも電気代の割合が最も高くなっています。ガス代をみると昭和38年の26.1%から平成23年の32.3%と6.2ポイント上昇しています。一方で石炭・木炭などは昭和38年の27.3%から平成23年の0.2%となり大幅に低下していることがわかります。灯油は昭和38年の5.1%から平成23年の10.7%とほぼ2倍になりました（図1）。

北海道地方は、灯油の支出が多く、ガス代が少ない

次に、光熱費への支出を地域別に全国と比べてみてみましょう。電気代は北陸、四国地方で多く、関東、九州地方で少ないことがわかります。ガス代は東海地方で多く、北海道地方で少ないことがわかります。灯油は北海道、東北及び北陸地方で多く、近畿、沖縄地方で少ないことがわかります（図2）。

寒冷地ではストーブ・温風ヒーターの購入が多い？

最後に、ストーブ・温風ヒーターの100世帯当たりの年間購入数量を都道府県庁所在市別にみてみましょう。購入数量の上位には青森市をはじめ寒冷地にある市が並んでいます。一方、下位には那覇市をはじめ九州・沖縄地方にある市が多く並んでいます。下位には、比較的温暖な地域が並ぶ中で、寒冷地の札幌市が45位に入っており同じ寒冷地でも、購入数量が少ないことがわかります（図3）。

図1 光熱費の支出金額の内訳（昭和38、58、平成15、23年）

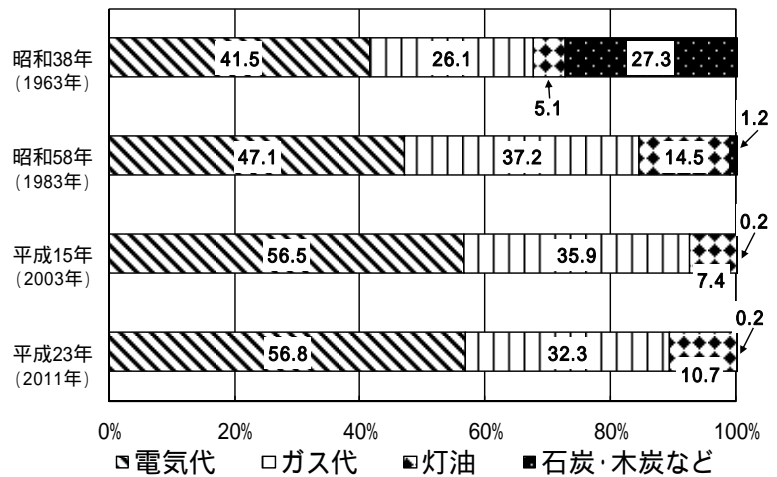


図2 地方別光熱費の年間支出金額（平成23年）

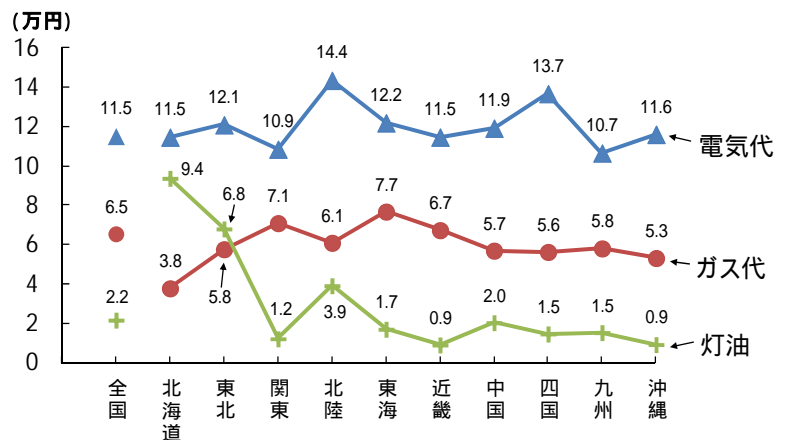


図3 ストーブ・温風ヒーターの都道府県庁所在市別100世帯当たり年間購入数量（平成21～23年平均）

